

ICU・SCUの申し送り

必要性や教育的効果が高い

目以上も若い看護師の声「現状の申し送りが有効を聞ける貴重な場と捉えていると考察。調査を行なった津田慎悟看護師は話している。」

白石区の札幌白石記念病院(野中雅理事長、宮田節也院長・103床)は、ICU・SCUに携わる看護師に申し送りについて意識調査を実施。経験年数に関わらず必要性が高いという意見が多く、教育的にも有効なことから、現場の状況や勤務帯によって申し送りを柔軟に行う現状体制を變えずに、新たな用紙などを作成して、簡略化できる方向で進めている。

同病院はICU4床、SCU6床を運用。日勤から夜勤への申し送りは受け持ち看護師が全員に口頭で伝達するが、緊急入院や手術が重なる場合は受け持ち看護師間のみで引き継ぐことも多く、夜勤から日勤へは回診時間が増えることもあって行っていない。現在の体制が適切なのか、病棟看護師31人にアンケート調査。ICU・SCUの申し送りの必要性は、看護歴1～9年目がほぼ必要、10年目以降も半数が必要と回答。現状10～15分程度かかっている時間の長さは約8割が適正としたが、若干長いという声もあった。現場の状況や勤務帯で体制が変わることへの業務支障は、全員がないと答えていた。

経験の浅い看護師は、申し送りを学習の場、ICU・SCUを受け持ち始める5～9年目は担当として必要な時間、10年